

〔駐村研究員だより〕

千葉県一小さな村の活性化とその背景

出山裕司

かつてゴルフ場誘致で村民を二分する論争のあった村が、今は全村活気に満ちた明るい雰囲気のある村に変わり、来村者も急増して大きな経済効果も生じています。その経過を報告いたします。

1. 三芳村の概況

- (1) 人口 4,527 人
- (2) 戸数 1,228 戸（千葉県で一番小さな村）
- (3) 面積 3,392 ha（うち 山林 51 % : 1,708 ha）
- (4) 予算 2,037,451 千円（平成 6 年度）
- (5) 財政 財政力指数；0.212（平成 5 年度）

2. 過去の補助事業等実績

- (1) 農業構造改善事業
 - ① 昭和 38 年度以降毎年度、農業振興のための各種事業の実施
 - ② 昭和 59 年度……ほ場整備の実施：農用地の 98 %（577 ha）
 - ③ 現在……ライスセンター等、近代化施設の整備の推進
- (2) その他事業
 - 昭和 45 年度～55 年度
過疎地域指定事業実施
無農薬有機栽培および配送開始
 - 昭和 50 年度～62 年度
農村総合整備モデル事業実施
- (3) ふるさと創世事業への取り組み
住民の自主組織が村に対して活性化についての提言や活動を行っています。安房八幡太鼓の創作、里見八犬伝に基づく創作を、アメリカをはじめ全国各地で公

演しました。

3. 全村農村公園構想に基づく事業展開

平成 2 年度より、全村農村公園構想に基づいて、植栽による景観整備を進めるとともに以下に示すような、活性化農業構造改善事業（緑の空間整備型）を実施しています。

(1) 概要

- ・期間：平成 3 年度～7 年度（5 年間）
……指定と同時に着工
- ・総事業費：700,000 千円

(2) 事業方針

- ・都市側の協力を得て、新しい視点での事業展開を行う
- ・農村風景、農産物、伝統文化、動植物、祭り等、村の地域資源を生かした創意工夫による事業展開を行う
- ・住民参加による事業の推進を行う
- ・人的交流による活性化を推進する

このような方針により事業を展開することにより、都市側との物、人、情報の交流を進め、その結果として、村および農業の活性化と農家への経済的な効果の波及がもたらされることをめざしています。

(3) 年度別事業展開

① 平成 3 年度事業

- イ. 地域資源活用道路の整備（21,712 千円）
- ロ. 農村景観活用交流施設の遊歩道整備（8,000 千円）

② 平成 4 年度事業

- イ. 滞在型農園施設整備（60,000 千円）
- ロ. 地域資源総合管理施設整備（200,000 千円）

③ 平成 5 年度事業

- イ. 地域資源総合管理施設整備（物産センター）
- ロ. ふれあい農園整備（60,000 千円）

- ハ. 農畜産物処理加工施設整備 (151,000 千円) 牛乳, 乳製品処理施設 (みるく工房)
- ニ. 滞在型農園施設整備 (69,000 千円)
- ④ 平成6年度事業
 - イ. ふれあい農園整備 (60,000 千円)
 - ロ. 農村景観活用交流施設整備 (60,000 千円)
 - ハ. 「農山村でゆとりある休暇を」推進事業 (4,382 千円)
 - ニ. 地域活性化映像情報化事業 (6,500 千円)

⑤ 平成7年度事業

農村景観活用交流施設を協議中

このような活性化農業構造改善事業の展開に伴って、組織化され活動を開始した活性化グループは、5団体で参加農家は108戸です。これらのグループが、都市農村交流イベントに積極的に参加して、村の特産物の販売や村のPRに力を入れた結果、「千葉県で一番小さな村」が大きな話題となりました。事業展開前には、年間200人だった来村者が、平成5年度は20万人になり、村内住民に対する経済効果も大きく、実際に村の中は非常に活性化しています。

私は、この活性化への取り組みの中で、平成5年度事業で設置された農畜産物処理加工施設「みるく工房」での低温殺菌牛乳（65℃ 30分）生乳100%ヨーグルト、固形アイスクリーム、ソフトアイスクリームの製造販売の技術指導の依頼を受けました。すでに製品として完成しており、地域の特産品として好評発売中で、しかも、高値で売れています。

地域の農畜産物に付加価値をつけて売ることと、地場産品としての特質を生かした適正価格により販売を行うことによって、地域の農畜産業を振興できるのではないのでしょうか。私は、そう考えて、千葉県内の農畜産業

者と消費者に呼びかけて地場流通研究会をつくり勉強しています。

第1回の研究会をさる11月26日に計画、実施したところ、千葉県内の市町村担当者、農業団体役職員、農民、消費者など70名の参加があり、活発な議論が行われ参加者は大変喜んで下さいましたし、参加出来なかった人からも当日の資料を求められたり、次回はいつやるのかという問い合わせがありました。当日使った資料の一部として、私の平成5年度驻村研究員会議報告も使いました。特に、千葉県では酪農をはじめ、野菜や米など、ほとんどの農業分野でこれ以上の規模拡大は無理であり、生産物に付加価値をつけるための加工手段をもつか、流通の短縮による販売上の優位性をもつことによって生き残り、農業と環境を守っていきたいという意見が多く出されました。

(千葉県千葉市花見川区、千葉北部酪農協理事)